

【13】 利根川の巨大魚ハクレン

ハクレンという川魚を御存知だろうか？

コイの仲間、十分成長すると体長 1~1.2m、体重 25~30 kgという小学生なみの大きさの巨大魚になります。

アマゾン川やナイル川の巨大魚はテレビで紹介され、日本人にも知られるようになりましたが、実はわが国にも利根川水系（利根川、江戸川、霞ヶ浦）にハクレンという名の巨大魚が生息しているのです。

ふだんは静かにゆったりと泳いでいてあまり人の目にふれませんが、5~6月の増水期になると産卵のため群れをなして水面に出没し、人目につくようになります。

私も、旧関東地方建設局の埼玉県栗橋町（今は久喜市）の利根川上流工事事務所に勤務するようになって初めて見たのですが、利根川の6月頃の最初の洪水で事務所のすぐ側の国道4号の橋のところ、産卵のために数百匹の巨大魚が集まって、水面から1~1.5mの高さに盛んにジャンプするのです。

交通の激しい幹線国道の橋の傍ら、改修の進んだ利根川でこんな原始的な光景に接すると全く想像できず夢かと思ったくらい驚きました。

橋の上から何人かの釣人が欄干越しに太めの釣り糸を垂らして吊り上げようとして奮闘していました。

釣りキチの部下の言によると、“引っかけ釣り”と称して餌もつけず、ただ鋭い大きいカギ針を水中に放り込み、食いついてくるのを引き上げるだけで、釣りとしては邪道だと言っていました。

格闘の末に釣り上げると、あたりは血だらけで殺伐としますが、3匹くらいトラックの荷台に並べられたのを見ると魚市場のマグロと変わらない光景です。

あれから数十年が経ち、こんな話は過去形と思っていたら、新聞の片隅に利根川の魚のジャンプの話が載っていました。どうやらハクレンの産卵は現在でも続いており、ただ産卵の場所が国道4号橋から1kmほど下流の東北新幹線の鉄橋の近くに移動したとのことでした。魚でも古い橋より最新の橋が好みかどうかは知りませんが、TV番組の実写では新幹線電車が鉄橋を渡るときの轟音でジャンプが盛んになっていました。

ハクレンは外来魚で戦前、戦中に食糧不足の補いとして中国から移入されたのですが、産卵後の卵は川の流にまかせっきりということで（流下卵）、わが国では川の長さが短く短時間で卵が孵化する前に海へ流出してしまい繁殖に到りません。

さらに餌にするのは植物性プランクトンでそれが大量に存在するのは主として河川の下流域や湖沼ですが、そのような条件を満たすのは勾配が緩くて流路が長く、霞ヶ浦を控えた利根川くらいしか無いということのようです。

ハクレンのジャンプは壮大な眺めですが、利根川で最初の洪水（それも彼らが判断する）時ということであらかじめの予想が難しく、なかなかメディアにも伝わらず世間にも知られないのが利根川ファンとして残念です。